

三重県で絶滅の恐れのある野生生物



ミミカキグサ →

<タヌキモ科>

きれいな湧き水などが湧き出している養分が少なくて明るい低地の湿地に生えています。

花が終わったあと、耳かき棒状になるため、ミミカキグサと言われます。

食虫植物で、糸状の地下茎に虫取り用の袋をたくさんつけて、地中の虫を捕らえて栄養源にしています。

6月～10月に数ミリの黄色の小さな花をつけます。

← カワラナデシコ

<双子葉植物ナデシコ科>

花は、7月～10月頃に咲きます。

花びらの先がこまかく裂けており、鮮やかなピンク色で美しい。

カワラ（川原）と名前が付いていますが、川原よりはススキの草むらなど明るい所で自生していることが多いようです。

草刈りをするときに注意してみてください。

緑色の草むらのなかにピンク色の花が見えるので、比較的見つけやすい花です。意外と近くに生えているかもしれません。



← ネコギギ

<ギギ科>

日本の固有種で、国の天然記念物にも指定されています。

伊勢湾、三河湾に流れ込む河川にのみ分布しています。

体が丸みを帯びていることや、顔がネコに似ていることからネコギギと名付けられました。

ナマズの仲間と、体長は大きくても14cmくらいまでで、10cm以下の個体がほとんどです。

県内では員弁川や鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川の各水系で確認されています。



カスミサンショウウオ →

<サンショウウオ科>

普段は、湿気の多い雑木林などの落ち葉の下に生息し、繁殖期になると、雑木林のそばの水路や水溜まりなどで見られます。

体長は9cm程度で、体色は褐色で、顆粒状の黒点が散在し、尾部の背線が黄色なのが特徴です。

生息域は三重県が東限と考えられています。



提供：(株)三重県環境保全事業団